卓　　話

平成 25 年 2 月 5 日

「米山記念奨学事業について」

RI第2630地区米山記念奨学委員会
委員長　内藤 篤様

本日は卓話にお呼びいただきまして感謝いたします。岐阜中クラブにおかれましてはご活躍されていることをお慶び申し上げます。また、日頃よりの米山記念奨学事業の推進につきまして心よりお礼申し上げます。過去に10名の奨学生のお世話をいただきありがとうございました。米山カウンセラーを引き受けていただいた会員に感謝いたします。本年度は今のところ地区委員会に21回の卓話依頼が来ており、委員長としては米山月間の10月を中心に7回の卓話を担当することになります。

事業推進の根幹をなす寄付金は、2630地区は一人当たり平均寄付額で全国34地区中29位（前年度実績）で8,842円／1名（前年度対比▲8.8%）であり、全国平均は14,624円／1名（前年度実績）です。岐阜中クラブの寄付金累計は2,590万円（12／末実績）です。寄付金の減少は、奨学金の額・奨学生の人数、に多大なる影響を及ぼします。毎年の米山月間に先立ち「豆辞典」が全国のロータリアンに配布されます。是非、お目通し下さい。寄付金の使途が分かります。全国の事業収入合計は約13億9千万、奨学金支出合計が12億1千万、管理支出合計が2億6千万、支出合計14億7千万で8千万の赤字運営です。赤字分は基金から取り崩している状態です。825名の奨学生を育てています。内、当地区は17名です。

事業の理念は「外国人留学生に奨学金を与え、彼らの目的達成を支援し、国際理解と親善に寄与する」です。決して恵まれない者にお金を、ではありません。彼らはお客さんではありません。彼らは優秀です。優秀なる上に更なる優秀を求め、彼らを鍛え次世代の指導者として育成し国際理解と親善に寄与させるのです。この事業の推進は奨学会でも地区委員会でもなく全国9万人弱のロータリアンなのです。奨学生を取り巻く世話クラブ、クラブ委員長、米山カウンセラーが原動力となり事業を推進しているのです。奨学会や地区委員会はお手伝いに過ぎません。岐阜中クラブの寄付金へのご協力に厚くお礼申し上げます。
本年度は17名の奨学生を育成しています。中国以外は3名、14名は中国です。この割合について様々な意見が地区委員会に寄せられています。地区委員会としてはその意見を尊重しバランスを図る方針で運営しています。しかし、各大学からの優秀な留学生の推薦は中国に集中しがちです。地区委員会は奨学生の選考に際し、①コミュニケーション能力が優れていること、②ロータリー活動に関心を示し積極的に協力すること、③日本語運用能力があること、④将来母国と日本との親善を深めようする使命感があること、の4点を基準として持っています。事業の理念は「外国人留学生に奨学金を与え、彼らの目的達成を支援し、国際理解と親善に寄与する」です。決して恵まれない者にお金を、ではありません。お金をあげるだけの事業であればこの事業は瞬く間に衰退して行くことでしょう。

我々は一生懸命働きポケットから浄財を出し社会活動を推進します。「近景」としての私と貴方、「中景」としての家族・企業・業界団体・町内市内県内の地域、「遠景」としての地方・国家・世界を支え続けて生きています。我々ロータリアンのハートの火を近景・中景・遠景の人々のハートに移して行くのです。日本のロータリーの誇りである米山記念奨学事業は「遠景」の中の世界への奉仕に間違いありません。

前年度、東日本大震災に際し20年前の中国人奨学生から１万ドルの小切手が岐阜クラブに届きました。それも直に岐阜クラブへではなく、ロータリーとは無縁の市民を通じて届きました。彼女は20年の間その方と交流を続け、手紙には「奨学金のことは20年間一日たりとも忘れたことはない」とありました。事業の真髄に触れ、涙しました。

本日、卓話でクラブの皆さんにお会いできて嬉しかったです。米山記念奨学事業・地区米山奨学委員会・特別寄付金・「ハートに火」を宜しくお願いいたします。ありがとうございました。